

09春季生活闘争情報

No. 4 2009. 03. 12 連合北海道春季生活闘争本部

積極賃上げで内需拡大に転換を！ 全道総決起集会で高柳会長が強調

連合北海道は、昨日(11日)午後6時から、春季生活闘争勝利全道総決起集会を開催した。北海道厚生年金会館大ホールには、仕事を終えた組合員約3,000名が結集し、「賃上げこそ最大の景気対策」との連合方針のもと、賃上げと安定した雇用確保による内需拡大、景気回復に向けて、一人ひとりの力を一つに結集し、働くものの底力を発揮することを意思統一した。



高柳闘争本部長は、「09春季生活闘争は、マクロ経済の内需型経済への転換、分配の歪みの是正、景気回復と生活防衛のための取り組みとの位置づけ、賃金の引き上げを求め、さらに経団連が自ら『企業は社会の公器』と言うならば、雇用の維持・安定は当たり前ものとして求めていく。

産別・単組・地域が、タテ・ヨコの連携を密にし、ヤマ場に集中した闘いをすすめていこう。

労働運動の原点である『闘いを通じて直接の成果と組織の強化・拡大が図られる』よう、この09春季生活闘争を精一杯闘おう」と、この闘いの意義を確認してあいさつ。

続いて、村田事務局長は『賃金よりも、雇用』という企業側のミクロ論に埋没せず、物価上昇に見合った賃上げを行い、個人消費を回復させ、外需に頼らない自律的な経済へ転換を図っていく、そのことが最大の景気対策。『定昇すら見直す』とのところもあるが、労使で積み上げてきた賃金体系の根幹を崩し、それを押しつけるようでは、道内の地場・中小企業に働く者は、ますます格差が拡大する。

16日からは中央における第一次のヤマ場。北海道では18単組が一次回答に引き出しにむけて交渉を追い上げ、3/23日からの第二のヤマ場には28単組が回答指定日を配置。

道内の地場・中小組合の多くは、4月の解決促進ゾーン、または、以降にずれ込むことが予想されるが、遅くとも4月末までに、320単組を超える地場エントリー組合の賃金交渉を終え、道内の未組織やパート・非正規の賃金等、労働条件改善に向けた環境づくりに努力して参りたい。

連合北海道26万5千組合員は、すべての働く人たちと共に、社会正義や連帯という、労働運動の本来の存在意義を目に見える形で発揮しよう」と情勢と闘いの提起をおこなった。(次号に続く)

○北海道地場集中決戦方式へのエントリーをお願いします

○要求・回答・妥結情報を集約しますので、2009春季生活闘争本部・情報センターまでお知らせ下さい。

TEL011-210-0050 FAX011-272-2255